

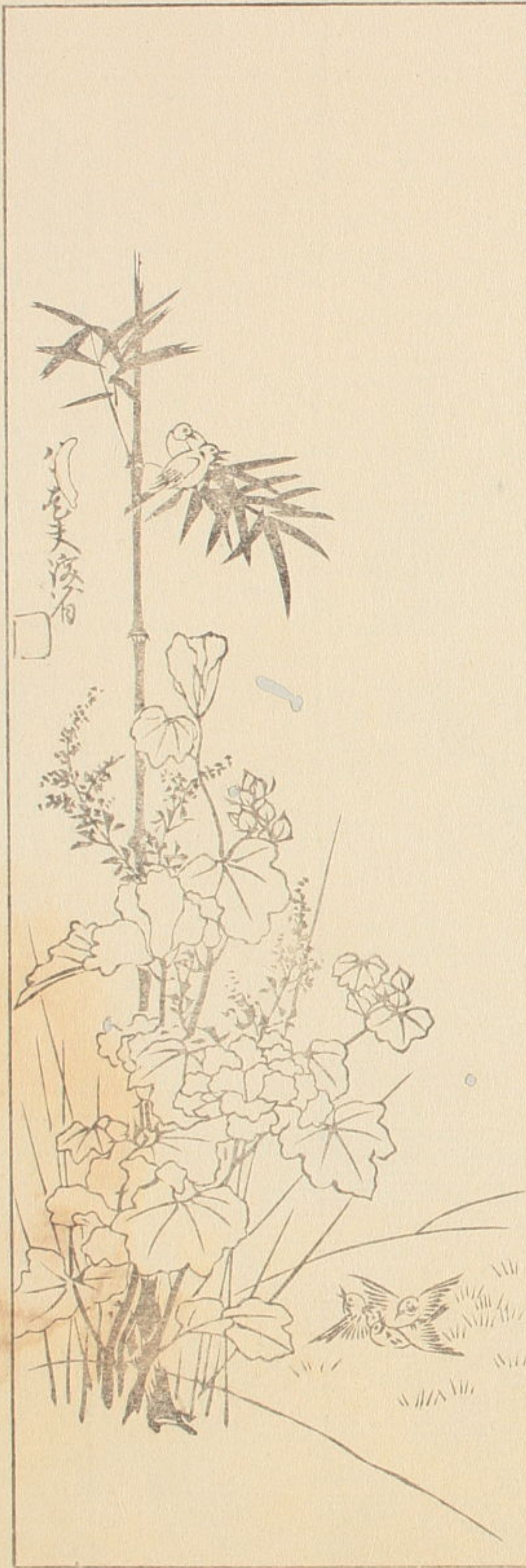


乾山遺墨

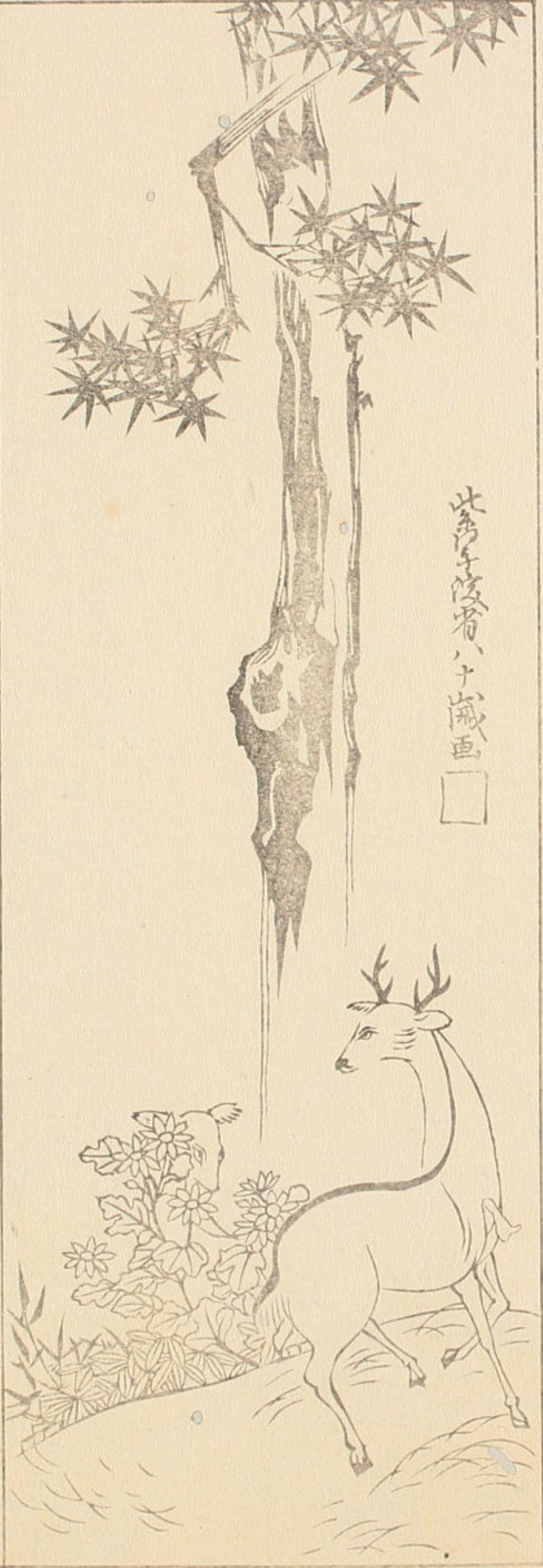
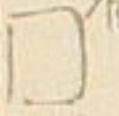








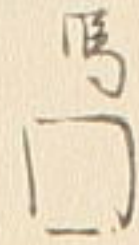
竹花美深香



此為手繪者八十歲畫

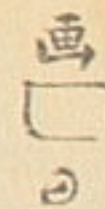


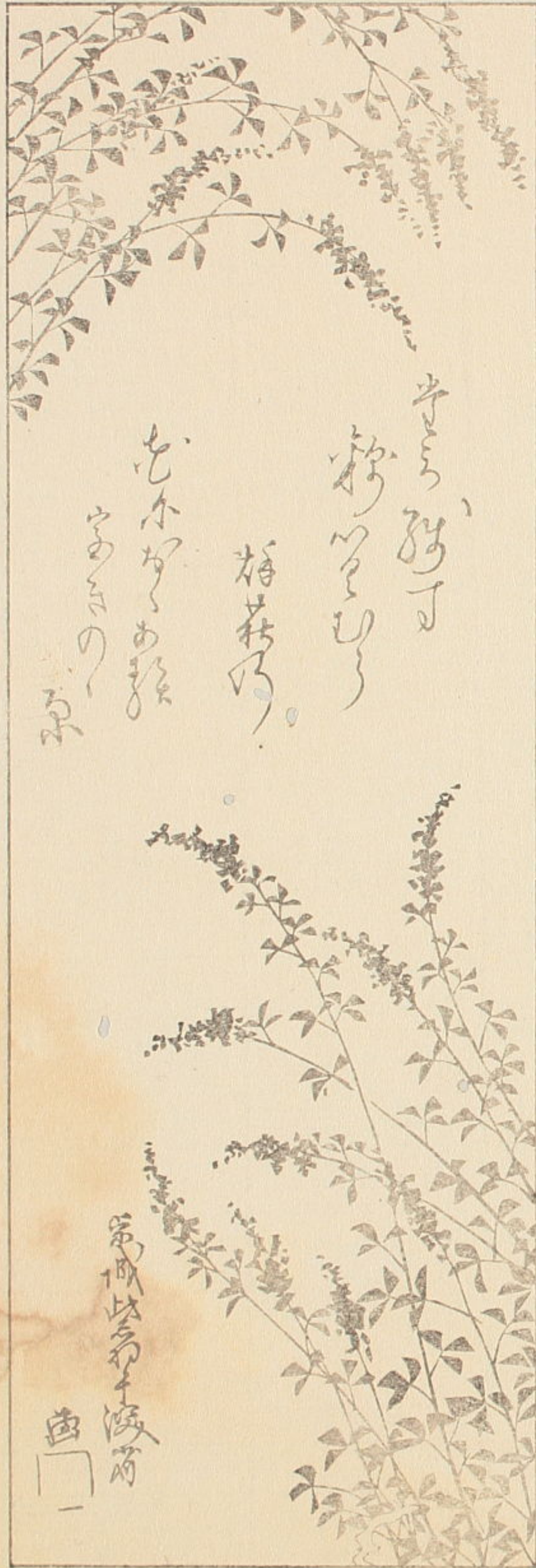
香小怪初帶媚  
 空葉遠含涼  
 奈我堂印深者



春風吹  
 柳絮如  
 雪之  
 少者  
 美之

七十有八  
 畫





牛車  
 梅枝  
 花小  
 葉大

第何  
 函



恐是牡丹重極  
 疑古葉再翻紅  
 再法  
 函



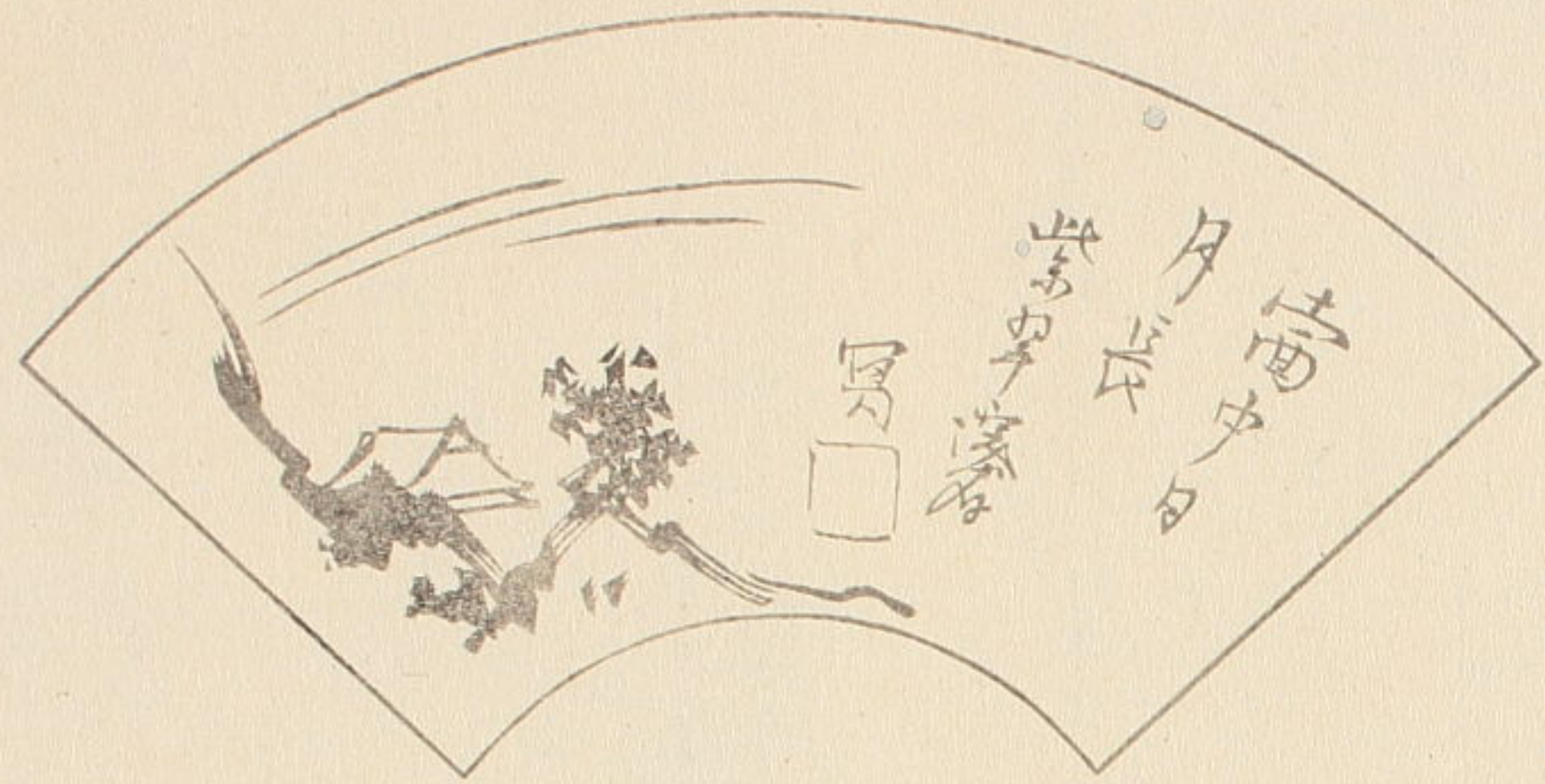
花  
 枝  
 葉  
 小  
 大

第何  
 函



あ  
 け  
 の  
 春  
 花  
 枝  
 葉  
 小  
 大

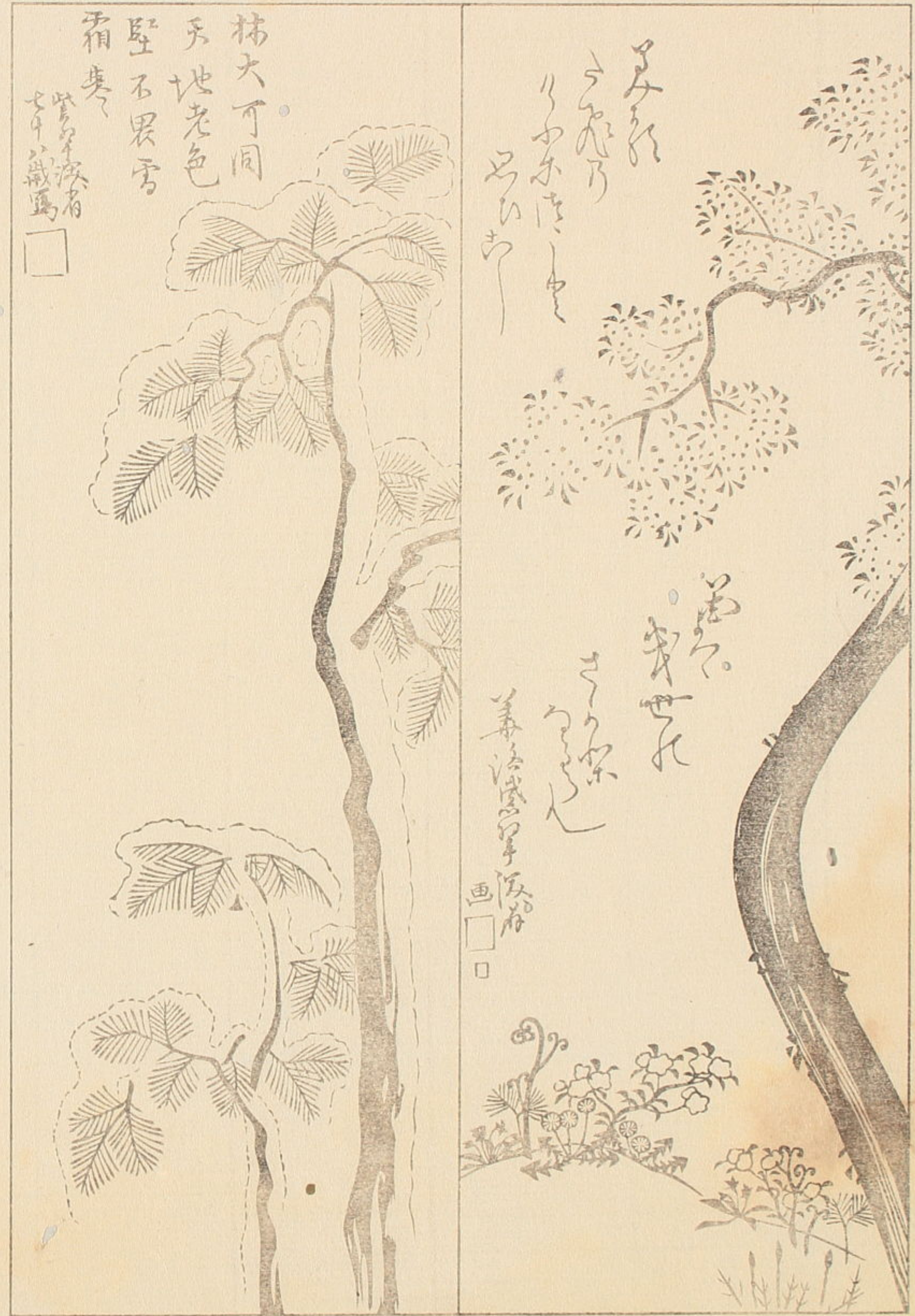
第何  
 函



月  
夜  
山  
景  
寫



深  
荷  
寫



柿大町同  
天地老色  
堅石畏雪  
霜寒

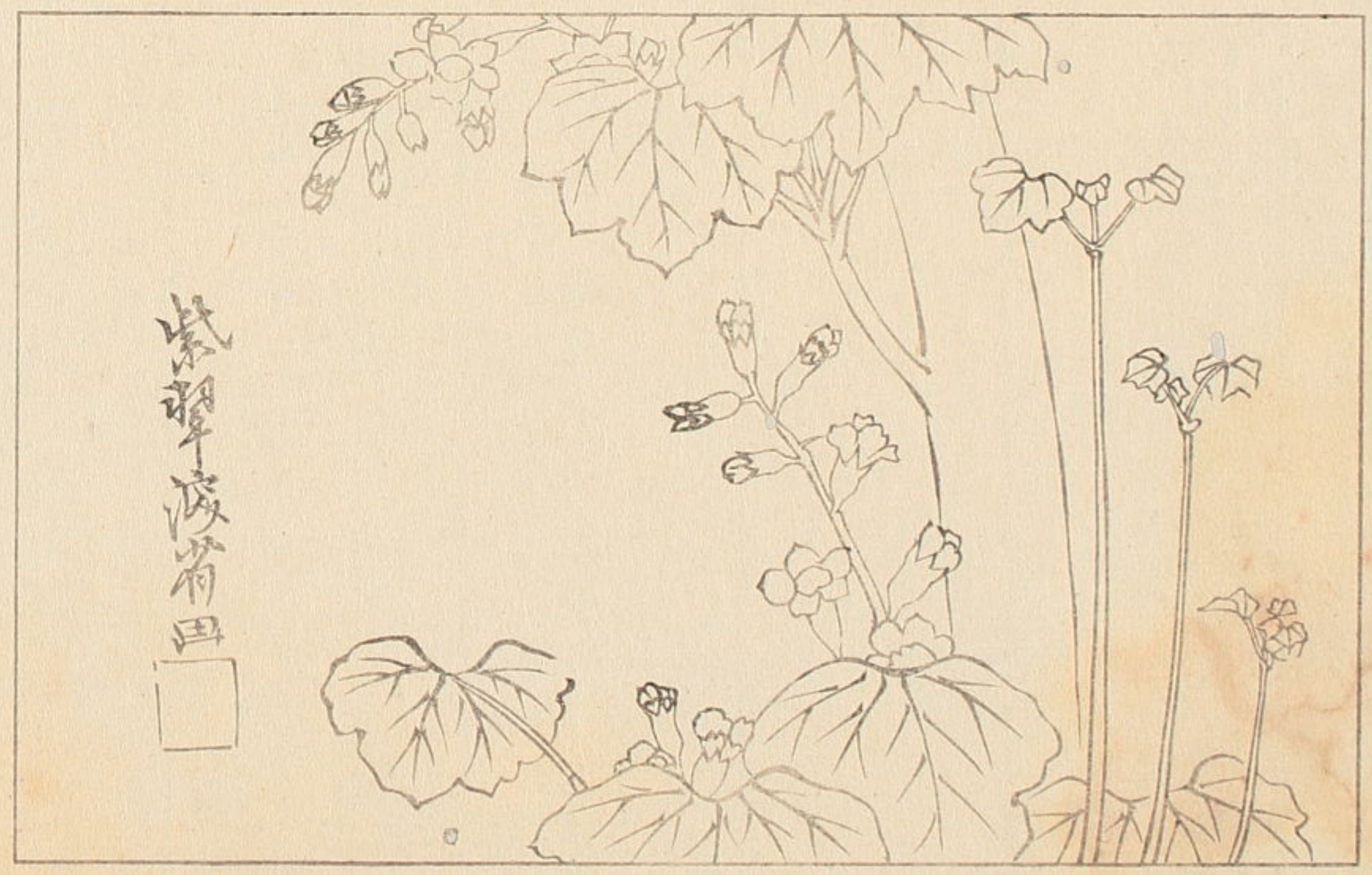
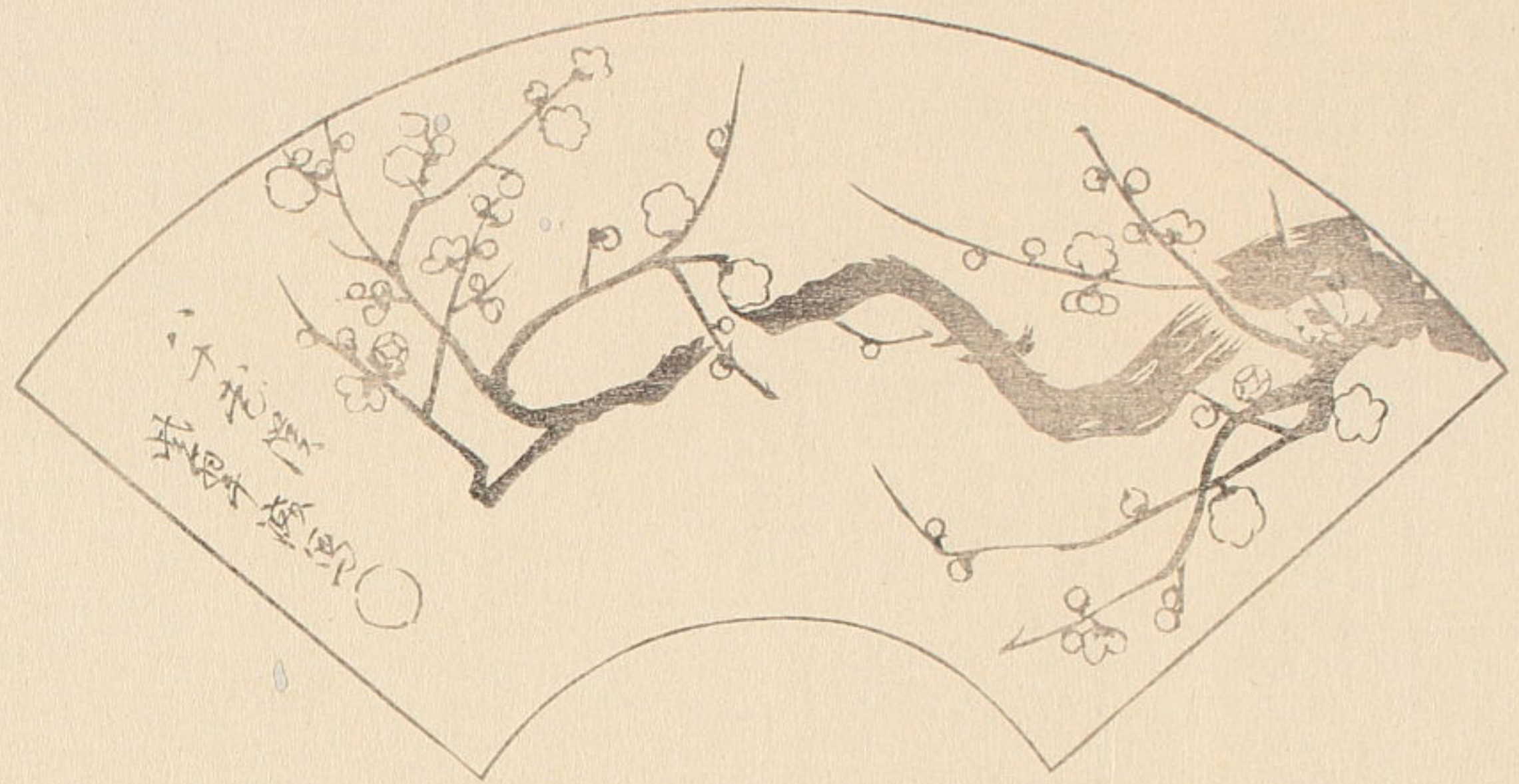
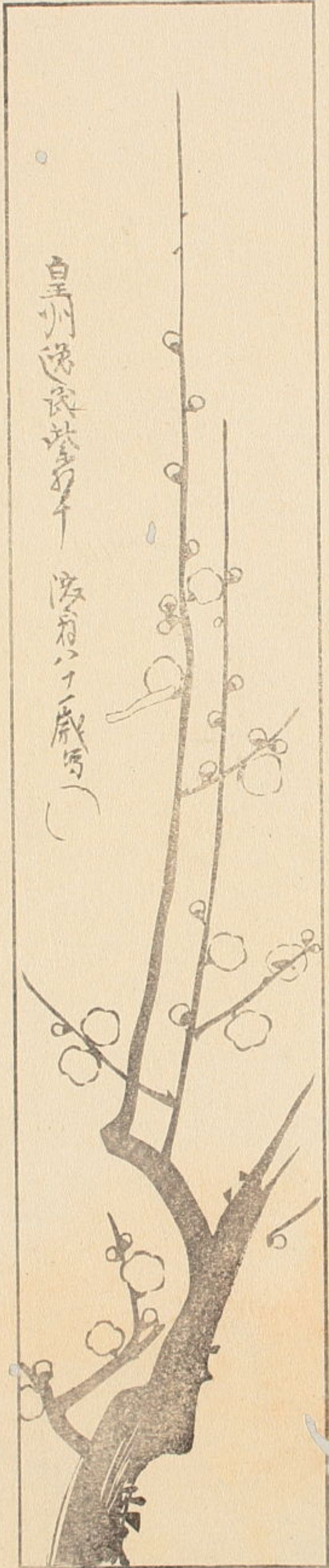
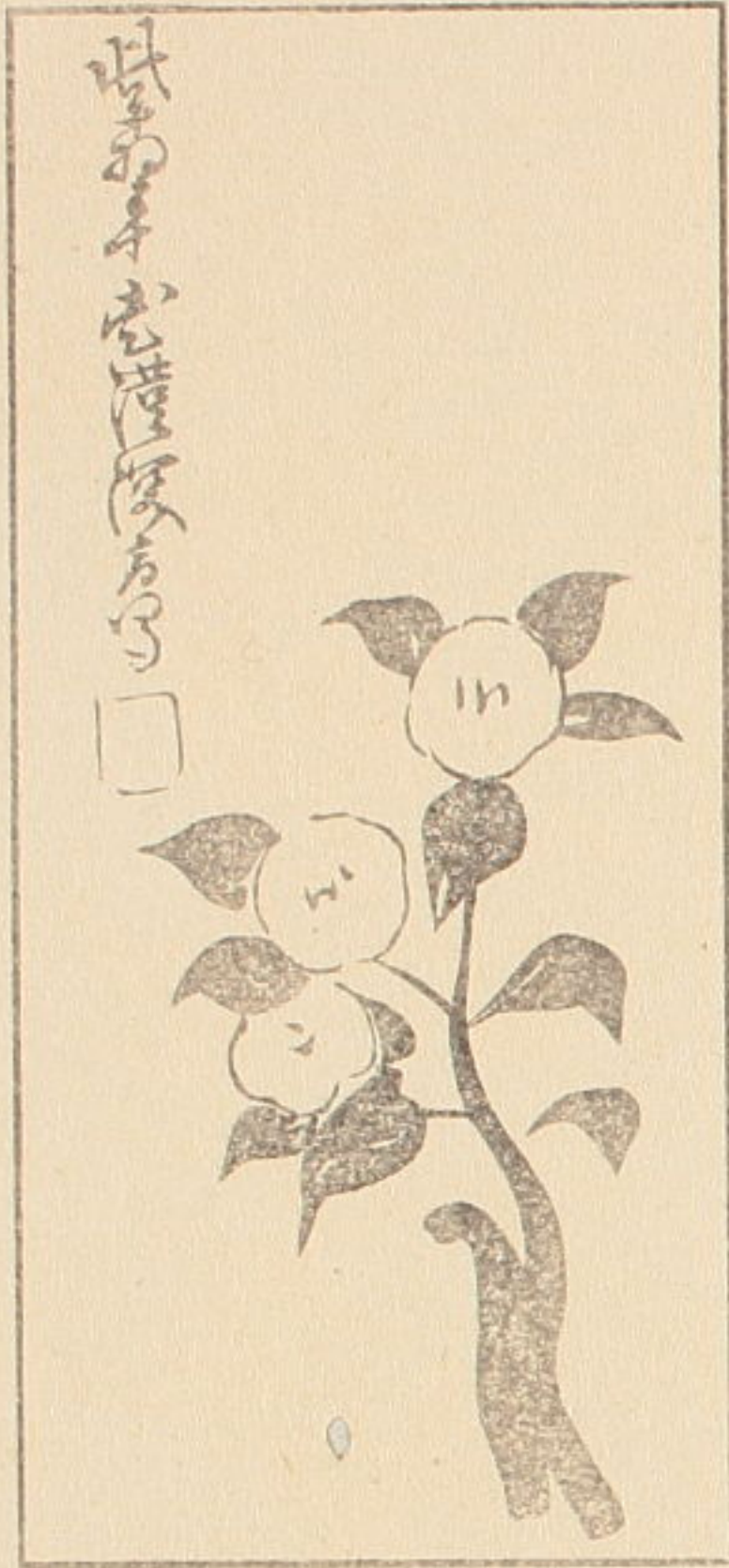
此  
畫  
乃  
海  
有  
七  
年  
歲  
焉



子  
女  
孫  
之  
世  
乃  
以  
此  
畫  
為  
記

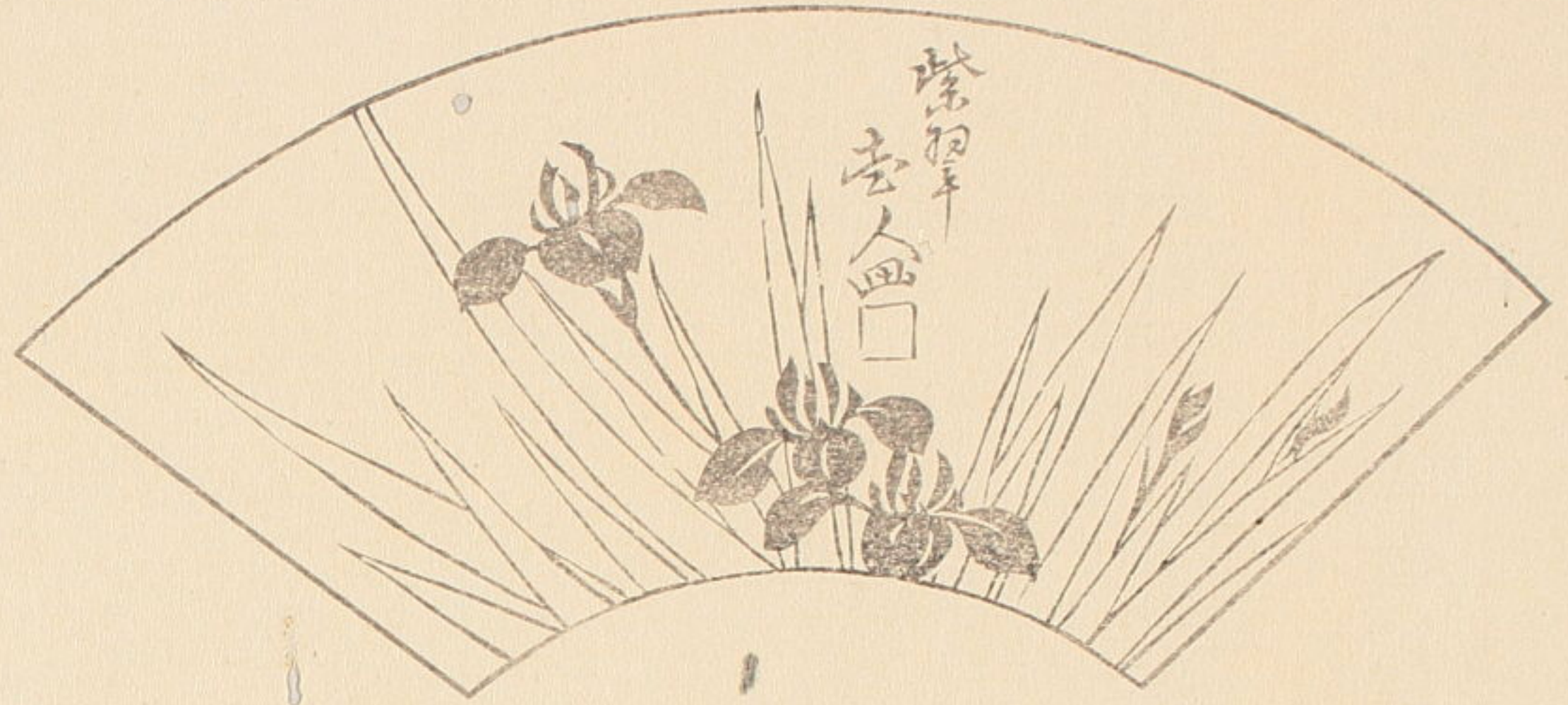
萬  
年  
之  
業  
也  
善  
法  
海  
有  
七  
年  
歲  
焉

畫  
□  
□

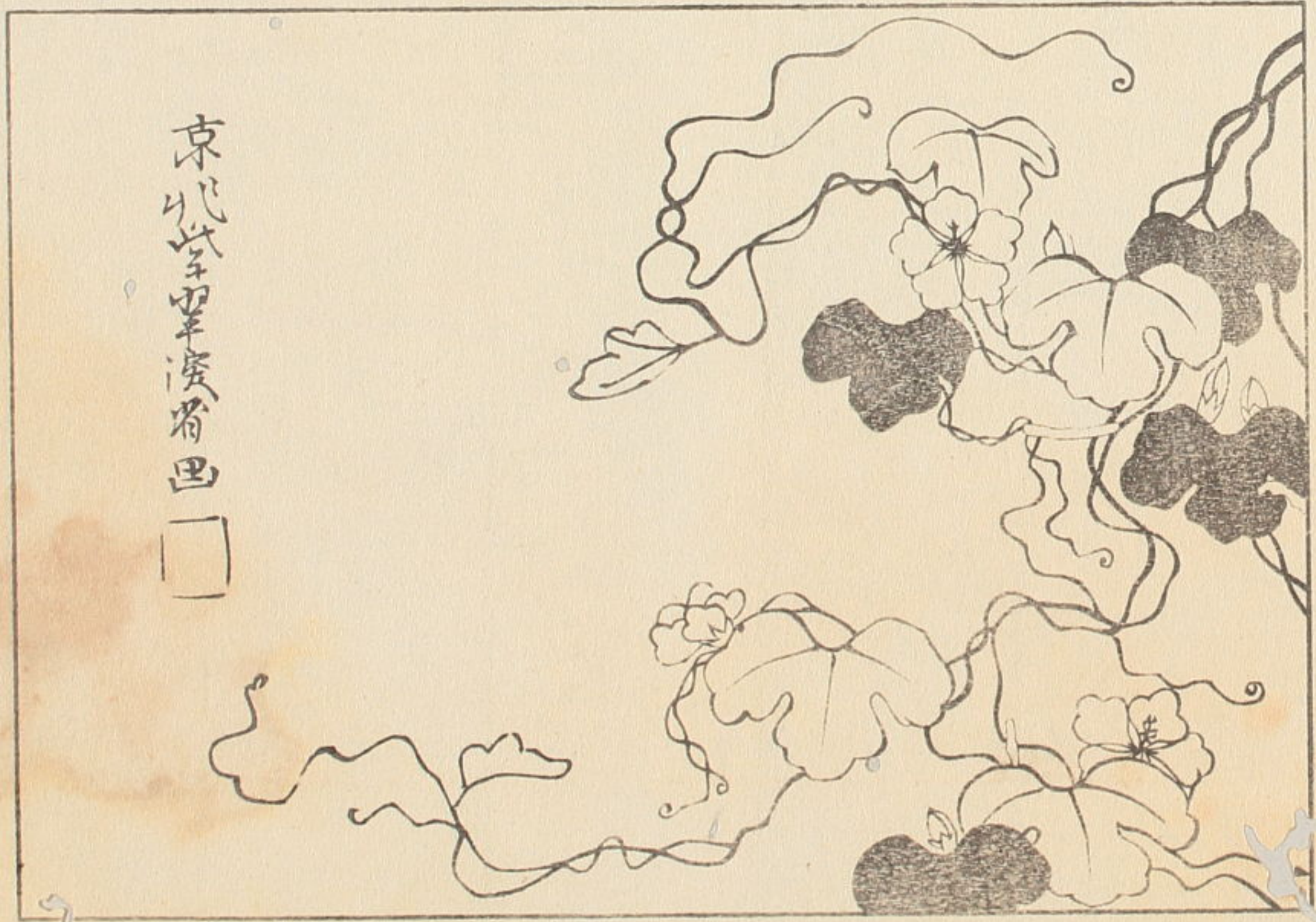




あはれ  
 花の  
 長く  
 白梅  
 紫翠半溪画



紫翠  
 半溪  
 画



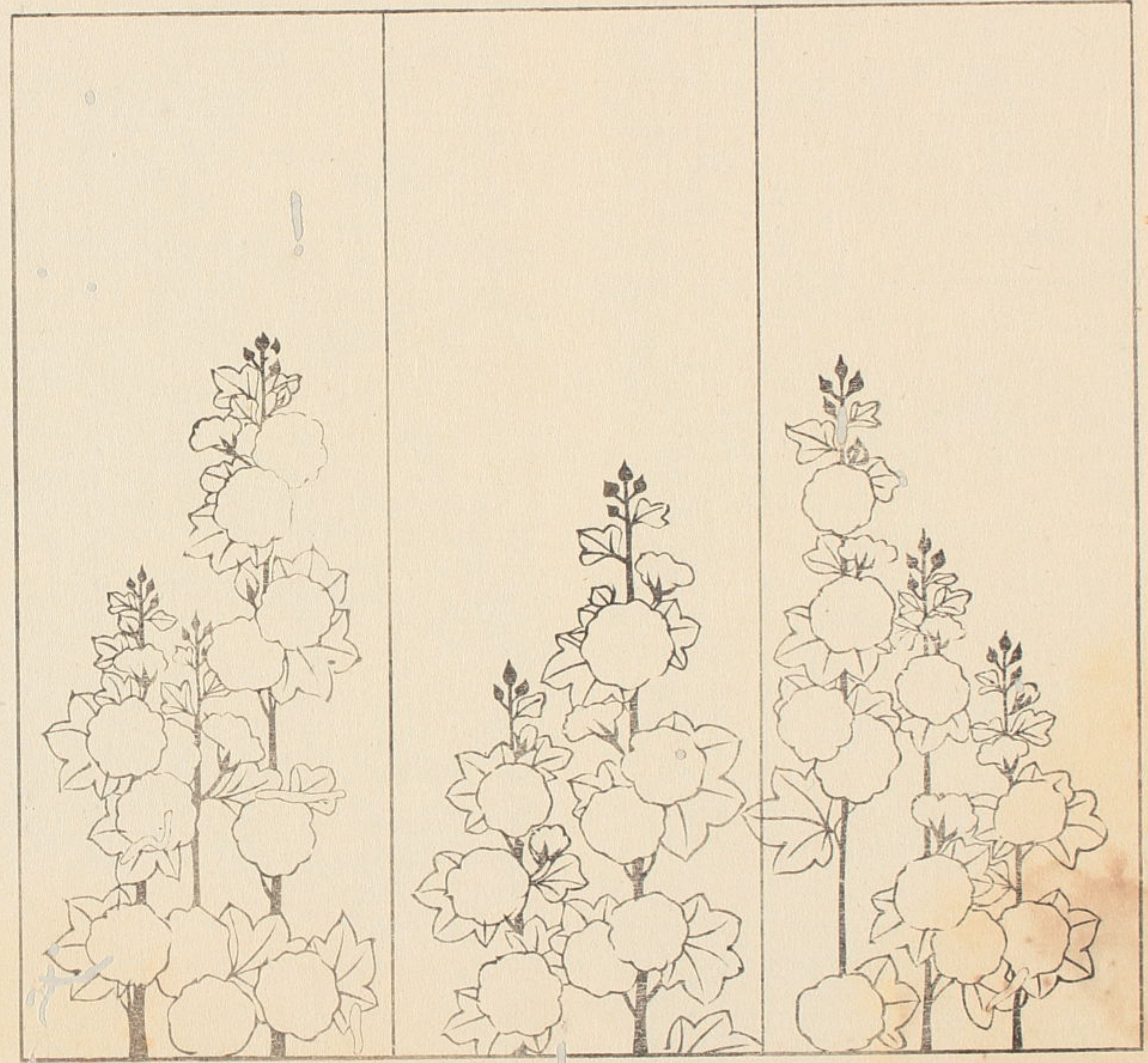
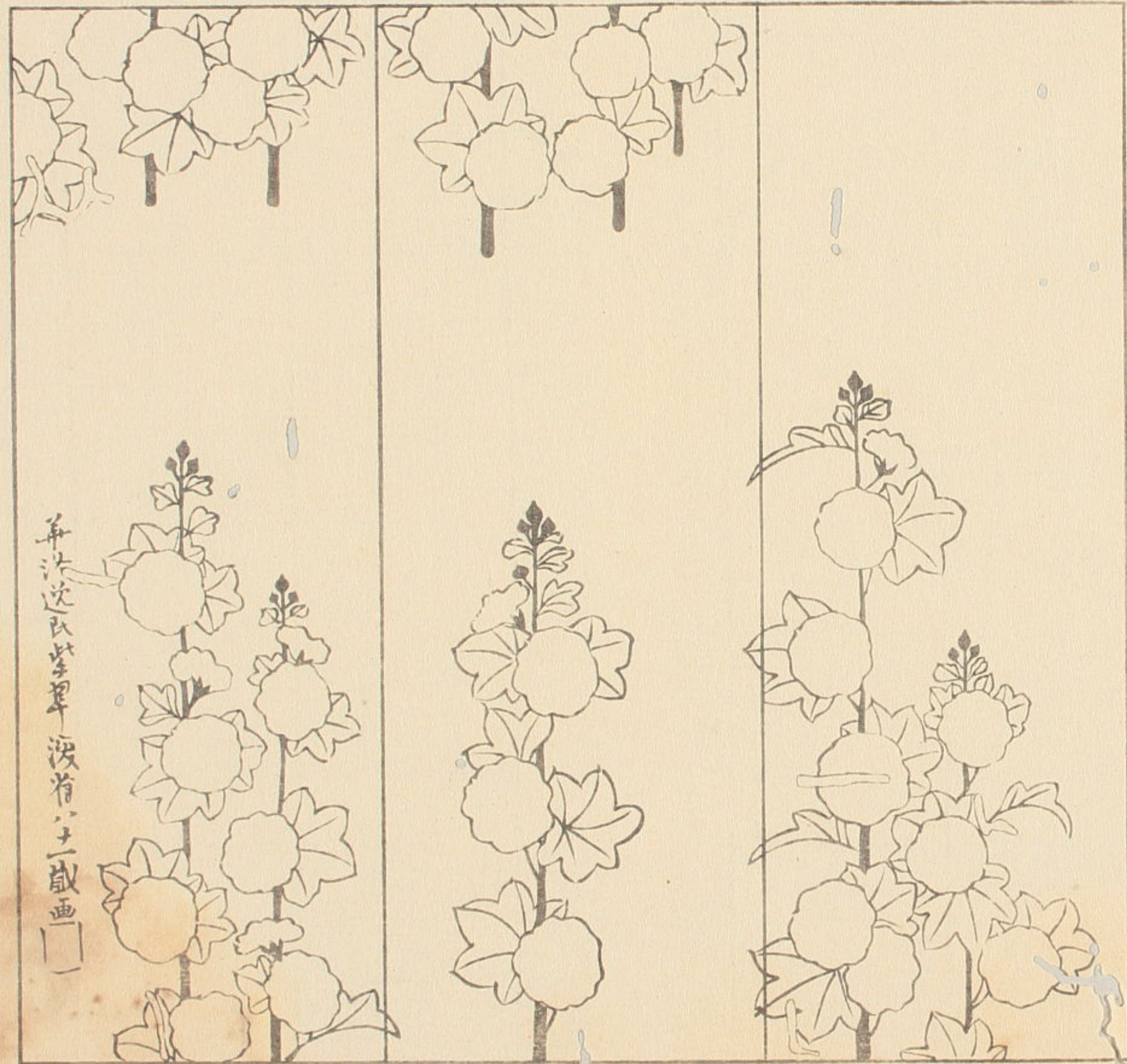
京  
 代  
 紫翠  
 半溪  
 画



紫翠  
 半溪  
 画







夕乃之秋のよきとわき  
 雲の向乃橋原を雪なり  
 今朝は下り



夕乃の秋のよきとわき  
 雲の向乃橋原を雪なり  
 今朝は下り

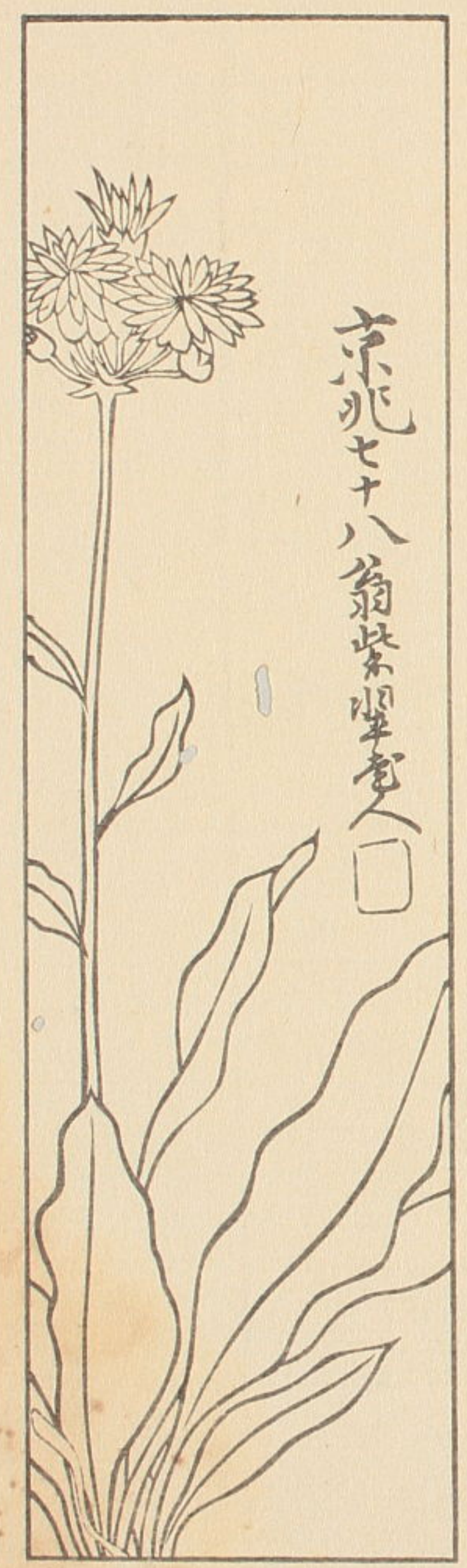
七十九の夕乃の秋のよきとわき  
 画□□

眉堂目秀  
 身輕願也  
 幼虫甘春也  
 人古禪祥  
 六四□



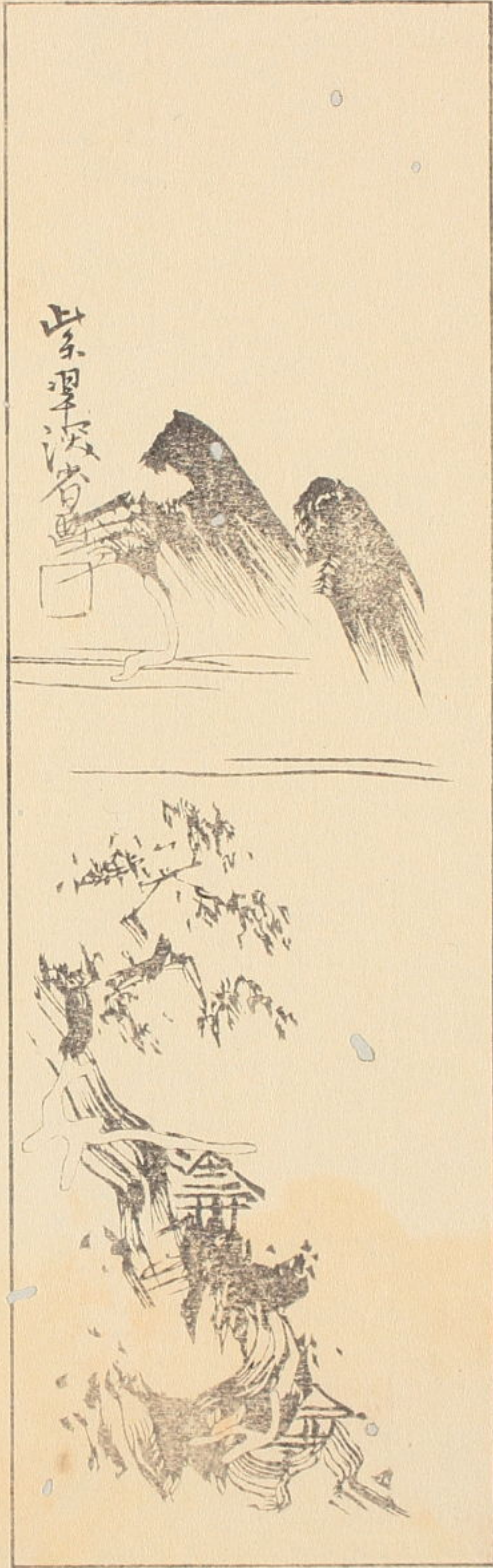
紫翠の溪の十の秋のよきとわき  
 画□□

紫苑七十八翁紫翠の秋のよきとわき  
 画□□





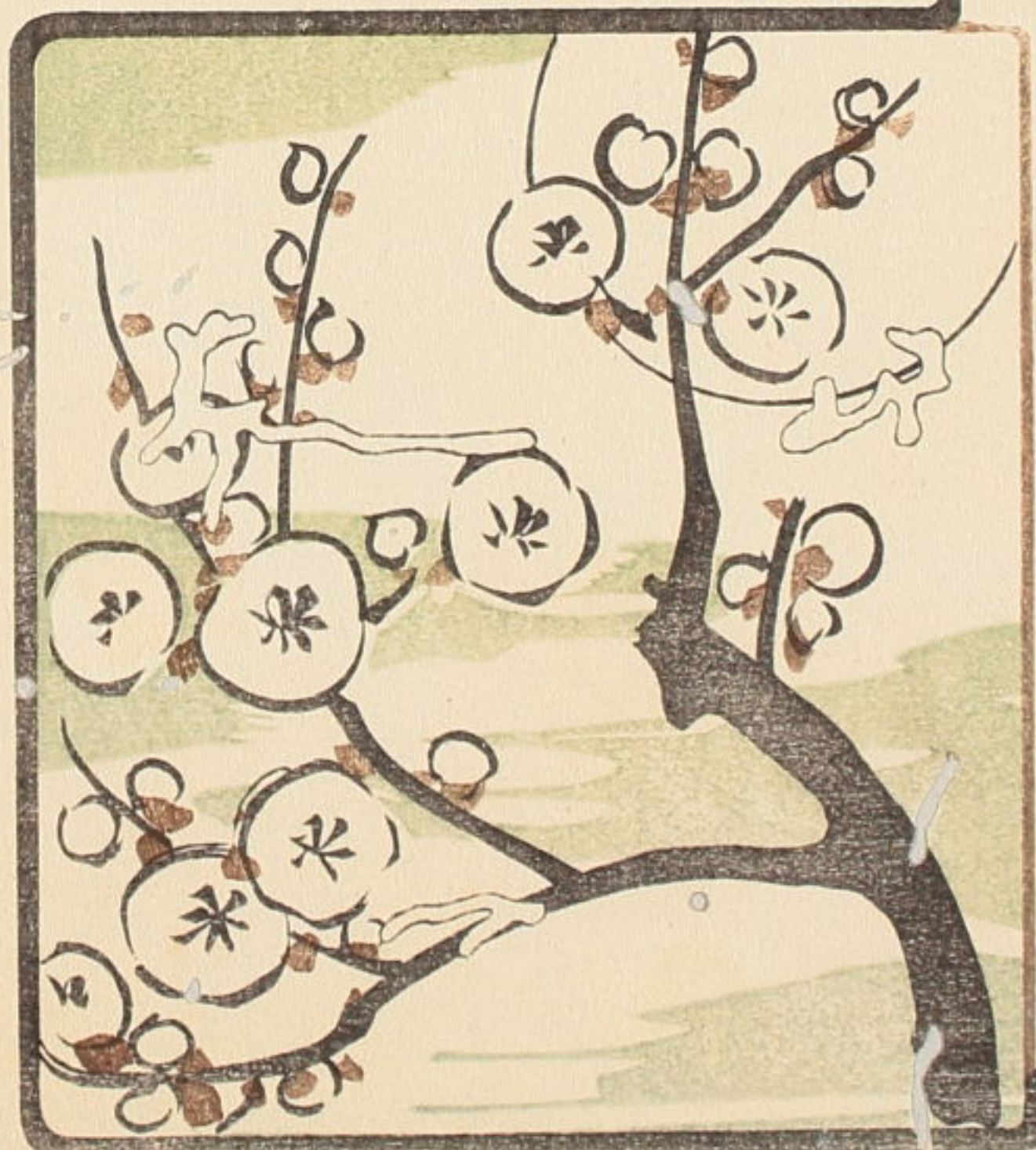
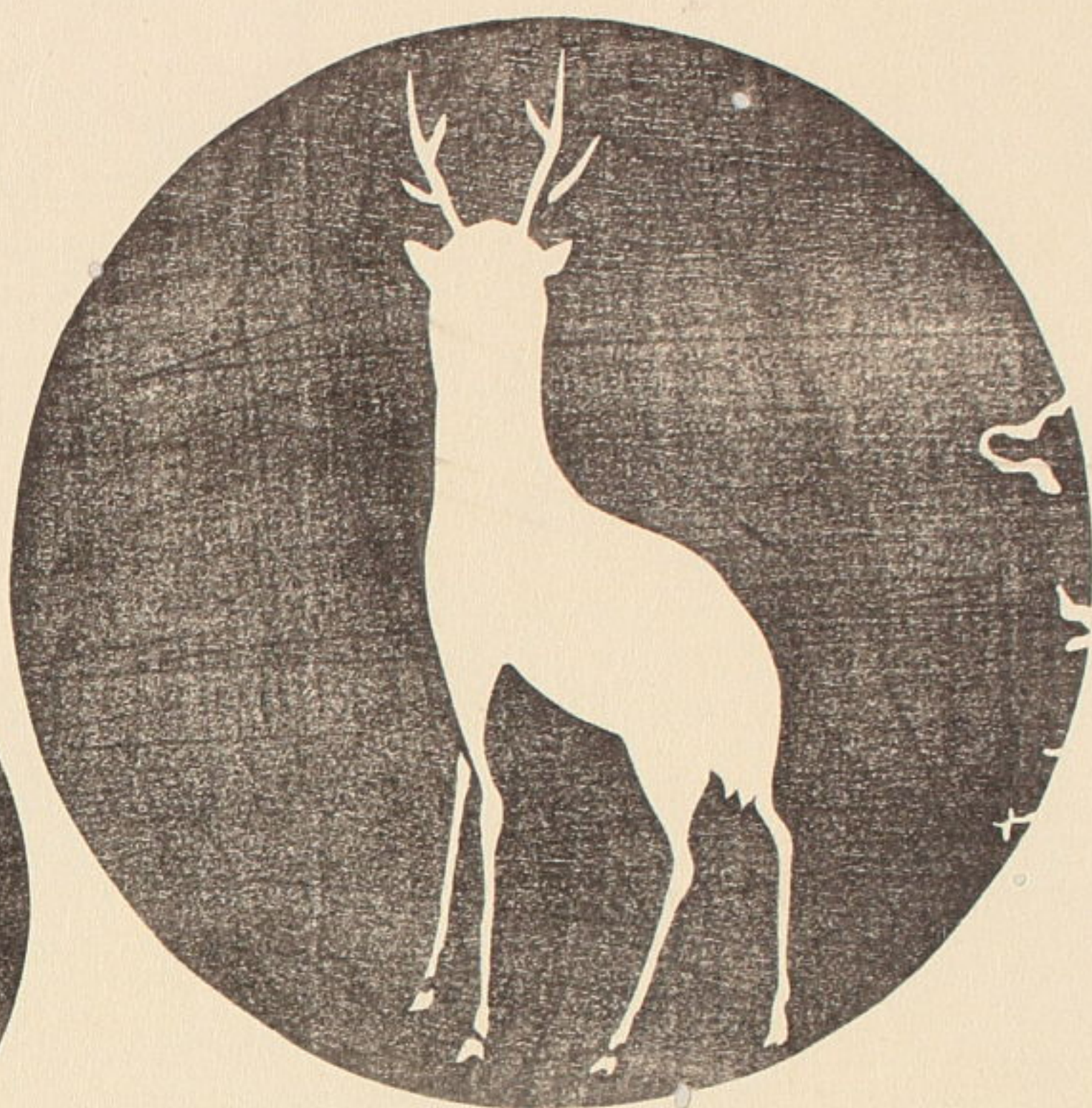
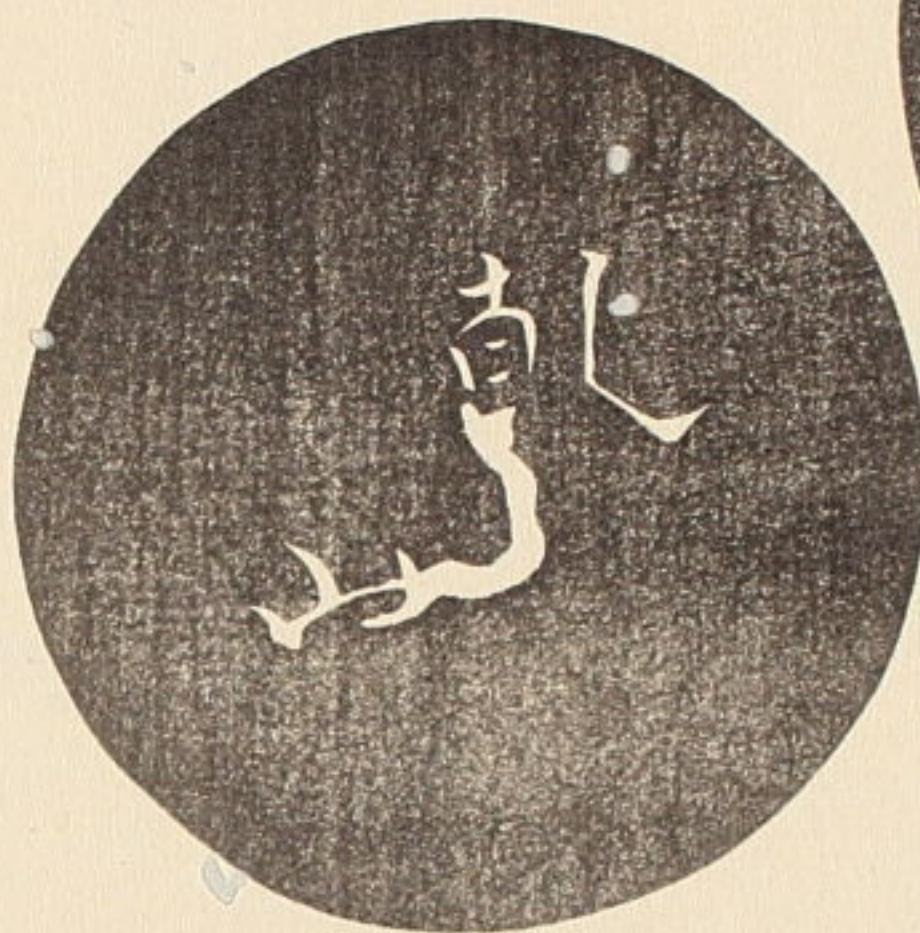
陶器





香合

香合



香合  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



鴻濛肇判  
南極儲精  
乾坤同人



乾山



口為壽星  
乾山



卓子四 光琳畫初孫壽 乾山讚



余

緒方氏の画を学ばるる久しと雖も  
意を得ず先師乾山一羽の名家として  
世に知る者なれども一羽の妙題を  
申すに後主先師の墓ありと云ひて  
を尋るも墓石倒壊なり作らざりし  
と云ふ事ありしを

以乾山の墓碑を尋るに

もあらず年近九十の人の問に離

るははに此年十月五日に

了付の事も席を招わると云ふ事あり

淡省の塔墓と云ふ事ありと云ふ事あり

の墓を尋るに

と云ふ事あり

と云ふ事あり



遺事考の序に至る所に又庫の序にあり  
撰出して一冊とるに緒方流の臨見  
を以て追補の心をなさんとも  
文政六年癸未十月乾山年十一月  
了するに又一冊とるになりも  
又交なり也

此は嘉永の序にありて一冊集なり

明正學の序にありて二百  
國華の序にありて乳山  
忌を依りて記念とする本  
秋に序にありて終る

